

山下 朗 氏の学位審査結果の要旨

主査：塩島 一朗

副査：西山 利正、湊 直樹

これまで院外心停止患者の発生時間には日内変動（朝と夕方にピーク）があること、また、時間ごとの生存率は夜間で低下することが知られていたが、高齢者を対象に詳細に検討した報告はなかった。

申請者らは消防庁が全国の救急搬送院外心肺停止事例を対象として収集している大規模な疫学データベースを用いて、2007年から2014年までの院外心停止患者を、65歳以上の高齢者群201,073名と、10歳以上、65歳未満の非高齢者群57,124名の2群に分けて解析した。院外心停止の発生数は、非高齢者ではこれまでの報告と同様に朝と夕方にピークを示したが、高齢者群は毎食事時間と関連した3つのピークを示した。また、生存率は高齢者群、非高齢者群のいずれも夜間時間帯で低下しており、高齢者群では特に夕食時間で一過性に生存率の低下が認められた。

本研究は高齢者の院外心停止についてこれまで知られていなかった臨床的特徴を明らかにしたものであり、その意義は大きいと思われる。